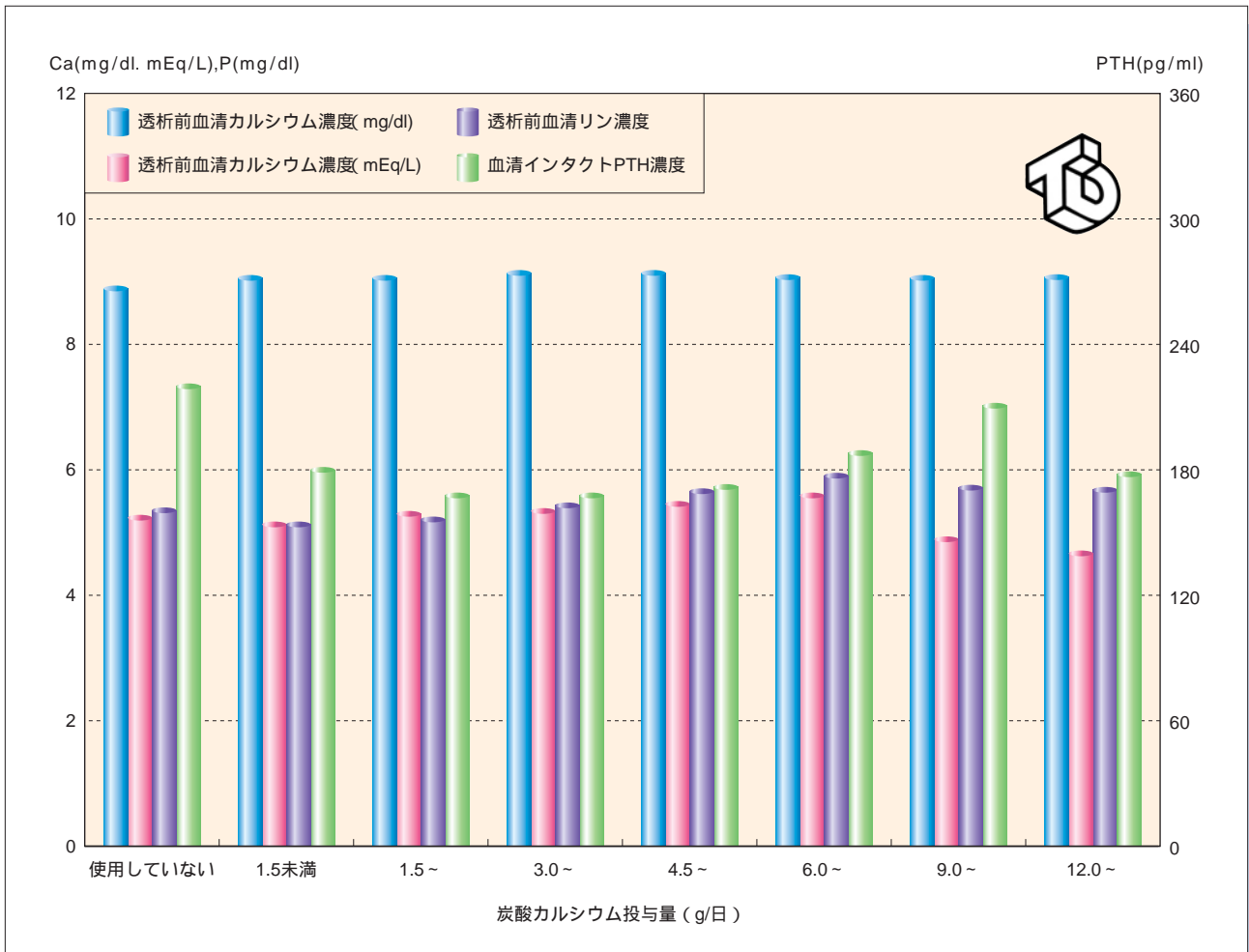


# 1) リン吸着薬の使用状況

## (6) 炭酸カルシウム投与量別 カルシウム、リン代謝 (図表27)



	使用していない		1.5未満		1.5~		3.0~		4.5~		6.0~		9.0~		12.0~	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差	平均	標準偏差
透析前血清カルシウム濃度(mg/dl)	8.96	1.05	9.11	0.90	9.09	0.90	9.16	0.92	9.17	0.92	9.13	0.95	9.08	1.03	9.10	0.98
透析前血清カルシウム濃度(mEq/L)	5.27	1.72	5.22	1.64	5.36	1.76	5.45	1.77	5.51	1.85	5.66	1.92	4.99	1.27	4.76	1.32
透析前血清リン濃度	5.41	1.63	5.16	1.36	5.26	1.42	5.50	1.49	5.74	1.50	5.92	1.58	5.79	1.64	5.74	1.63
血清インタクトPTH濃度	220.77	239.02	181.65	190.60	169.34	185.95	169.95	190.01	174.20	197.17	190.21	211.78	212.07	259.91	178.01	210.63

### 解説

炭酸カルシウム投与量と透析前血清カルシウム、リン、インタクトPTH濃度の関係について検討しました。

炭酸カルシウム投与量と透析前血清カルシウム濃度、血清リン濃度の間には明らかな傾向は認めませんでした。

また、図表24の塩酸セバラマーの場合と比較すると血清インタクトPTHの平均値が全体に低値でした。PTH高値例はビタミンD製剤投与に伴う高カルシウム血症を生じやすいため、リン吸着薬として塩酸セバラマーの使用頻度が高いのかも知れません。